出島村（でじま）

1. 沿　革

ここは土浦からバスで東へ40分、新治郡の東南端に位し、村の周囲の三分の二は霞ケ浦へ半島型に突出している風光明眉な田園地帯である。この地方の大部分は昔常陸国に属して小田氏や田伏氏、佐竹氏の所領だつたが、その後水戸藩や土浦の土屋氏の領地となつていたが、明治維新後は新治郡に所属することになつた。昨年2月1日には、下大津、美並、牛渡、佐賀、安飾、志士庫の出島地区6カ村が合併して、面積65.20平方粁、世帯数3,531、人口19,783人（男9,783、女10,071）を有する大農村として新発足したもので、今や新しい「村づくり」にたくましい足どりを示している。（昭和30年国勢調査）

2. 産　業

まず農業面を見ると、農家戸数3,045、人口 17,656名（男8,718、女8,938）、耕地面積3,218町（田1,349町、畑1,346町、樹園地523町）山林1,709町、原野1,493町を有する典型的な純農村である。特に樹園地が多く、中でもくりの作付面積は123町で、年産39,000〆にのぼつている。次に畜産面を見ると、乳牛296頭、役牛1,605頭、馬226頭、豚1,013頭、めん羊65頭、山羊304頭、兎1,818頭、にわとり19,505羽を有しており、最近特に乳牛や山羊、にわとりの増加が著しく目立つている。（昭和30年冬期農業基本調査）この村は県でも集約酪農指定村となつており、酪農経営を盛んに奨励している、この附近は平地林が多いので、開拓部落が多く、中でも新生開拓団は全国でも模範的な実績を収めている。ここはまた桑園が270町もあつて、養蚕戸数975、年間収繭高は実に49,268〆にのぼり、たばこやくりとともに大きな現金収入となつている。次に動力用農機具の普及は素晴しく、動力脱穀機1,072台、動力籾すり機460台、精米麦機 565台、動力製縄機155台、電動機651台、石油発動機561台、ハンドトラックター2台、動力耕耘機9台、畜力カルチベーター108台、畜力砕土機348台、畜力水田中耕除草機13台、畜力すき1,213台、畑用播種機196台などを有している。今や農家の有畜化と機械化は急速に進み、合併とともに近代的農村の建設が着々と行われているようである。

次に水産面を見ると、霞ケ浦を利用する内水面漁業が非常に発達しており、漁業戸数355、漁船397(動力128)を有し、漁獲高は年間わかさぎ14万〆、白魚3万8,000〆いさざ26万7,000〆、えび2万4,000〆、はぜ4万4,000〆ふな1万5,000〆、こい9,000〆にのぼり、その他うなぎ、どじようなどがとれる。また淡水貝も毎年5～10万〆位を採取している。なお最近漁船の動力化が進み、また帆曳網を利用するものが約半数に達している。

次に商工業面は、純農村だけあつて見るべきものは殆んどなく、わずかに魚類の煮干加工業25カ所あるに過ぎない。また村では、28年から未亡人の厚生事業として機械を貸付け、特産出島絣の製造を奨励したが今や試作に成功し、昨年は1,400反を生産して将来の発展に大きな期待を寄せられている。工業事業所数は49、従事者数 141名製造出荷額5271万円を上回つているが、魚類の煮干加工業が大部分である。

3. 教育文化

ここには、小学校10、中学校が6あつて、小学児童3,792名(男1,984、女1,808)、中学生徒1,349名(男692女657)に達し、学校施設は殆んど新らしく近代的に改築されている。(昭和31年学校基本調査)また公民館も6カ所あつて、青年婦人団体の活動とともに生活改善、料理講習、図書の閲覧などを行つている。村としても、特に衛生事業に重点をおいて、モデル地区を中心に蚊やはい、のみ、病魔のいない住みよい部落の育成に努力している。また子供会では、毎年子供の幹部講習会を夏期鍛錬と兼ねて歩崎（あゆみざき）の湖岸を利用して開催している。村では合併を記念して鉄筋コンクリート、二階建、200坪の新庁舎を約1,000万円で建築中である。

なおここは湖岸地帯であつて、風光明眉な所が多く、中でも佐賀地区にあつて茨城百景や霞ケ浦八景の一つである〔歩崎の晩鐘〕は昔から有名で、奇岸重なる断崖上から三又沖や浮島を眺め、老松の梢天を突き、真澄の湖心にその姿を写している風景は絶佳に値する。ここにある常夜灯は、その昔土屋相模守の寄進によるもので、仁王門にある仁王は運慶の孫弟子の名作である。また本堂には、名刹十一面観世音が安置されている。またこの辺は古墳が非常に多いので大昔海岸であつたらしく、多くの集落があつたものと思われ、考古学界からも大きな関心を寄せられている。

（わかさぎの煮干乾し）

4. 財　政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算　（単位円）

	村税	地方交付税	公共企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	繰入金	雑収入	村債	合計
歳入	35,183,000	16,000,000	108,000	340,000	1,251,000	2,049,000	410,000	700,000	1,000	584,000	2,000,000	58,626,000

	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
歳出	625,000	19,599,000	3,029,000	6,775,000	13,221,000	488,000	1,396,000	6,563,000	48,000	325,000	295,000	1,188,000	4,574,000	500,000	58,626,000

村の横顔

笠間町（かさま）

1. 沿革

この町は水戸から汽車で西へ走ること40分、西茨城郡の東部に位し、北は栃木県と、南は新治郡の八郷町に接しており、山麓に囲まれた小さい盆地に昔から発達した旧城下町である。昔は土御門天皇の元久二年宇都宮時朝が笠間長門守となつたのが笠間藩の始りで、その後松平氏、浅野氏、牧野氏が順次城主となつたのである。明治22年には単独で町制をしき、昨年2月11日には隣の大池田、北山内、南山内の3カ村を合併して、今や面積107.14平方粁、世帯数4,983、人口26,063人（男12,599、女13,454）を有する大笠間町が誕生したのである。（昭和30年国勢調査）ここには県の支所、土木事務所、保健所、農業改良相談所をはじめ、営林署や電報電話局、専売公社出張所、高校などがあり、また日本三大稲荷の一つである笠間稲荷神社や笠間県立公園、佐白公園などがあつて、今やこの地方の行政、産業、経済、教育、文化、観光の中心地として、躍進をつづけている。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数2,730、農家人口16,502名（男8,167、女8,335）、耕地面積 2,229町（田1,235町、畑900町、樹園地94町）を有し、（昭和30年冬期基本調査）中でも土質の関係上たばこの119町、甘藷194町、陸稲195町、大豆の 181町が目立つており、品質もなかなか優秀である。この外にも山林6,447町（民有5,068、国有967、県3、町有 102、区有58）、原野248町と広大な面積があつて年間の伐採量や製炭量は相当なものである。（昭和31年耕地台帳調査）

次に農機具の面を見ると、最近動力用、畜力用農機具が次第に普及し、電動機295台、石油発動機343台、動力脱穀機647台、動力籾すり機 361台、動力製粉機109台、動力精米麦機 394台、ガーデントラックター1台、動力製縄機52台、畜力カルチベーター10台、畜力水田中耕除草機52台、畜力砕土機285台、畜力すき763台、畑用播種機25台にのぼつている。

次に畜産面を見ると、乳牛83頭、役牛849頭、馬726頭、めん羊132頭、山羊216頭、豚242頭、兎491頭、にわとり11,384羽、を有し、特に山麓地を利用してめん羊、山羊の飼養が増加してきたようである。この外にも農家以外の養鶏業者もあつて1,300羽位飼つている。（昭和30年冬期基本調査）

次に養蚕面を見ると、戸数384、桑園面積122町、収繭高15,174㌔にのぼり、たばことともに農家収入の大きな役割を果している。（昭和31年町調査）町としても合併後の農村地区に対し、病虫害防除の農薬半額補助や酸性土壌の改良などを重点において農業生産力の増加を計つている。

次に商業面では、旧城下町だけあつて非常に発達しており、法人および常用労働者を有する商店数85、従業者数413名、年間販売金額4億4,000万円以上にのぼり、常用労働者のいない個人商店は460、従業者数799名、8月中の販売金額 2,767万円に達している。（昭和29年商業調査）中でも多いのは洋品雑貨の小売業や食料品小売業が大部分を占めており、ここからも観光地の一面がのぞかれる。

次に工業面を見ると、事業所数82、従業者数 439名、年間製造出荷額2億 200万円を上回り、中でも陶器製造や製材業が非常に多い。ここは県内でも珍しい笠間焼の産地で、年間 2,000万円を上回つているが、笠間焼は今から約 200年前安永年間に常陸国箱田村（今の北山内地区）の久野半右衛門が近江国信楽から陶工を招いて、かまを築いたのがその始りである。その後代代の笠間藩主の保護奨励を受けて今日の隆盛を見、今後も県や町の協力指導の下に協同組合を結成して品質の向上と新しい感覚をもつて工芸品の製造に着手している。従来は笠間粘土の特質を生かして、甕、すり鉢、植木鉢、土管などをおもに製造していたが、今後は花器や茶器などもどんどん作られるものと思う。

（笠間焼きのかまど）

3. 教育文化

ここには、高等学校1、中学校4、小学校9あつて、高校生徒743名（男326、女417）、中学生徒1,911名（男957女954）、小学児童2,573名（男1,322、女1,251）に達している。公民館は本館の設備を拡充し、分館を9カ所設置して、町特有の地域に適した青年婦人の運動を展開している。たとえば活花や絵画、文学、ペン習字などのクラブ活動を行い、一般教養文化団体とともに文化生活の向上のために大きな役割を果している。ここからは日本画の大家木村武山画伯が出ており、この画風を慕う人たちが少くない。

またここには美術館もあつて、幾多の重要文化財や天然記念物が多く、中でも国宝の薬師如来立像、千手観音立像、弥勒菩薩立像、薬師如来像、如意輪観音半坐像や姫春蟬は有名である。稲荷神社の参詣客は全国から集り年々数十万の多きを数え、秋の菊祭と春の節分や初牛の人出は物すごい。この神社は孝徳天皇の御代に創建され、現在の社殿は徳川末期の安政、万延年間に建築したものである。また町では、町営バスをはじめ、町営の温泉、国民健康保険組合などを経営し、観光客は勿論町民から大変好評を受けているこはと大きな特色であり、今後の発展が期待されている。

4. 財政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算　（単位円）

歳入	町税	地方交付税	公共企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	町債	合計
	44,587,300	14,000,000	24,201	2,999,900	6,357,560	557,366	112,004	50,000	567,002	1,300,000	70,585,333

歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	1,317,972	24,445,381	3,905,226	3,036,330	13,498,566	9,057,517	1,743,580	5,261,490	959,020	237,820	429,600	1,239,110	4,118,501	1,335,220	70,585,333